教職課程広報誌

教職課程センターだより 第17号

発行日　2017年3月28日

巻頭言　「知識の価値を改めて見直す」

教職課程センター副センター長（東海分室）　藤井　啓之

近年、コンピテンシーやジェネリックスキルなどという言葉がもてはやされ、知識や概念がいささか軽視されているのではないかと思う。たしかに、これまで繰り返し、「知識の詰め込み」や「暗記」が、本来の教育とは異なる悪しきものとして批判の対象となってきた。だから、「知識ではなくコンピテンシーを」というのは、受け入れられやすい言い回しなのかもしれない。しかし、子どもたちに「なぜ知識を詰め込んだり、暗記したりするのか」と問えば、即座に「テスト・受験があるから」と返ってくるだろう。テストを廃止することなく耳触りのよい言葉をぶち上げても、現実はたいして変わらないのではないか。

それでは、テストがなかったら知識は不要なのか。このことを考えてみると、知識のなかに異なるレベルのものが雑然と含まれていることが見えてくる。たしかに、歴史上の事件の年号は本当に必要な知識なのか、読んだこともない文学作品の作者と作品名は必要な知識なのか、と疑わざるをえない知識もあれば、律令国家とか、武家社会とか、そのときどきの社会を把握する上で鍵となるような概念もあるし、さらには唯物史観がいうような、「生産力と生産関係」といった歴史の発展全体を捉えるための概念もある。立憲主義は我々が現代民主主義社会を生きていく上で不可欠の概念だし、慣性の法則や光の屈折など、我々が日々接する自然現象を捉える上できわめて有益な知識も存在する。

１２世紀のある哲学者が「私たちは巨人の肩の上に乗る小人のようなものだ」と言ったが、それは、人類が、自然や社会を理解するうえで、先達が築き上げてきた知識や概念に依拠するからこそ、私という一つの人間が見るよりもはるかによく自然や社会のことが見えるのであり、この巨人の力を借りなければ、我々は極めて無力なのだということだ。社会や自然を全体として漫然と眺めていては何も見えてこない。知識や概念という橋頭堡から世界に働きかけるから世界を知ることができるのだ。

そう考えると、知識が不要なのではなく、本当に必要な知識や概念を剔出することが必要なのであり、また、それらを単に暗記するのではなく、社会や自然を捉える上で不可欠のものであると実感できる形で獲得することが必要なのではないか。「知識よりもコンピテンシーだ」と言うとき、巨人の肩に乗ることの重要性をきちんと認識しているか、知識を批判するあまり重要な知識を軽視していないか、とても気になるところである。

孟春：春の始め

大和田青山（孝士）書

「妙趣（みょうしゅ）　丁酉孟春（ひととととりもうしゅん）」

教職課程センター副センター長（美浜）　大和田孝士

左記の書は、「ことばに出して言えないほどすばらしい趣」という意です。

教員採用試験　合格体験記

子ども発達学部 心理臨床学科 障害児心理専修 4年　丸山明

私は長野県と愛知県の小学校で受験し、幸いにも両県で合格をいただくことができました。これは私の約一年間の努力だけでは決して頂くことのできなかった大切な「合格」です。この体験記が参考になるかはわかりませんが、良い知らせが後輩につながっていくことを願って、書かせていただきます。

●筆記試験対策

わたしは中高生を対象とした塾講師のアルバイトをしていたこともあって、小学校全科と一般教養はあまり力を入れて勉強していなかったです。国・数・理・英はほどほどに各自治体の過去問などで感覚をつかみ、苦手な社会科、選択科目である家庭科や音楽、体育などの学習を中心に取り組みました。足をひっぱったのは、教職教養でした。書き込み式の薄めの本を一冊購入して一通り学習、あとは練習問題をひたすら繰り返し解いていました。よく出る法律などは別紙に印刷して勉強の合間に読んでいました。ちなみに小論文対策は何もしていません。しかし、何を聞かれたとしても自分の得意分野の話に寄せて書いていこう、こんな流れで書こう、ということだけは決めていました。小論文は自分のこれまでの経験や大学での学びを合わせて記述できれば良いのかなと思います。

そしてこれは私の意見ですが、「教員採用試験の筆記試験」だけは個人戦です。もちろん苦手なものをどうやって覚えるか、良い勉強の仕方等を仲間と共有することはできますが、筆記試験の答えは決まっているので、最終的には自分の積み上げになってくると思います。ここは踏ん張りどころです。

●口述試験対策

小学校実習の終わった11月あたりから、数人で自主ゼミを組んで教育時事や教育問題を勉強しあう会を週一でもうけていました。初めは教育問題を扱っているテキストを一冊選び、それを読んで考えたことをあれこれ話し合っていました。結論は出ないので毎回モヤッと終わっていましたが、その疑問や課題も面接に活きるかもしれないので書き留めておくようにしました。テキストを一通り終えたら試験に出そうな教育時事をとりあげ、自分たちで調べて簡単にレジュメにまとめ、内容を共有していました。

個人・集団面接練習は受験自治体も学部もバラバラな10人程度で行っていました。記述対策と違って正解もないですし、いろいろな意見が聞くことができてとても面白いです。いいなと思ったものは真似したり、自分の中でキーワードを書き留めたりするようにしました。面接練習のない日は、もっと深みのある言葉を取り入れるために有斐閣アルマの某書籍などを読むようにし、そこから素敵な考えだなと思った言葉や考え方を参考にしていました。集団討議練習はいろいろなメンバーで行うと良いと思います。同じ人と行っていると意見がすぐまとまってしまうので様々な人と討議を行っておくと本番に対応できる力がつくと思います。

●実技試験対策

実技試験のある団体は何県かあると思いますが、実技は苦手と思っている人は早めに練習に取り組んだほうが良いです。私は長野県の実技試験で体育、音楽があったので一次試験の合格をいただいてから練習を始めましたが、もっと早めに取り組んでおけばよかったなと後悔しています。特に私が苦手な体育は、体育科の先生や、体育の得意な友達に教えてもらいながら毎日練習していました。もちろん二次試験は実技だけではなく、面接、筆記などの勉強もあったので、余裕を持って計画的に行うことが大切だと思います。

●最後に

私自身、どんな教師になりたいのかを考え、仲間に支えられながら走り切った一年間でした。みなさんも教員採用試験を通して、たくさんの人と出会い、意見を交わし、今までの自分を見つめ返すことができると思います。たくさん考え、行動することは、結果が良くも悪くも必ず自分の糧になります。だからこそ、皆さんには残りの大学生活での学びを大切にしてほしいです。全力で応援しています。

教員採用試験に合格して

2014年度 社会福祉学部 社会福祉学科 卒業　木本愛理
受験教科：高校福祉　受験自治体：愛知県、静岡県（2016年）

はじめに

「3回だな・・・」ある先生からの言葉が今でも忘れられません。3回、教員採用試験を受けてだめだったとき、今後も受け続けるか、進路を考え直すか。私は「三度目の正直」という言葉を大学4年で心に決めました。2016年の夏で3回目の教採、自分のなかで2年前に決めたことを思い返し挑みました。

ここでは、教職を志した理由や、大学時代と卒業後の教採に向けた勉強方法などを述べたいと思います。読んでいただいたみなさんのお力になれば幸いです。

１．教職を志した理由

私が教職を志したのは、小さい時からの夢である「ふくし」をたくさんの人に伝えたいという思いからです。卒業後、高校福祉科の講師になって高校生たちと関わるなかで、他者を思いやる心を育み、自分も大切にする心を持った生徒を育てたいとの思いが一層強くなりました。

２．勉強方法など

☞ザックリと対策方法を伝授

① 受験したい自治体の傾向を知る。出題方法が多様なため必ず過去問を確認する。
② 面接練習は繰り返し行う。
③ 一般教養で苦手な科目にはあえて手をつけない。
④ 勉強する環境はその日の気分で変える。また、隙間時間も有効活用する。

☞専門教養を極める

私は**一般科目が大の苦手**でした。しかし、1次試験で筆記は必ずあります。

そこで私は、一般教養：教職教養：専門教養＝1：3：6の割合で勉強を進めました。

大学時代は、教職課程の友人と主にゼミ室で勉強をしました。図書館と違い、好きな時に息抜きで喋ったり、質問し合えたりしたので、静かにじっと勉強するのが苦手な私には合っていました。福祉系高校出身のため、専門教養はある程度知識もあり、あまり焦らず過去問の傾向から少しずつ勉強に取り組めました。

卒業後、講師になってからは時間がなかなか取れませんでしたが、授業内容が専門教養に直結していたので教材研究が教採の勉強につながりました。

※高校福祉の専門書は販売されていません。独学で対策をするにも限界があります。そのため、過去に受験された先輩に問題の出題方法や内容などを聞いたり、過去問を保管されている県庁などに出向いてコピーしたりすることをおすすめします。また、教科書や国試ナビを読むのも大切です。

３．後輩の皆さんへアドバイス

１．アルバイトとの両立は可能。社士と教職の併用は取る単位数が多く、さらに他学部履修は必ずあります。空きコマを活用して課題を片づけていきましょう。
２．面接では、いかに話題の引き出しを持っているかが重要です。教育実習や大学生活の経験を全力で語りましょう。
３．面接の対策は積み重ねが大切です。練習した分だけ自信につながります。志望動機や心掛けたいことなどを書き出してみましょう。
４．自主ゼミで仲間に頼りましょう。苦しいときこそ一人で抱え込まず、人に話して気持ちを軽くすることがモチベーションを保つ秘訣です。

おわりに

1回目は1次試験で不合格、2回目は2次試験で不合格と、不合格が続き、私は「負けぐせ」のようなものがついていました。「今回もだめかもしれない。私は教員に向いていないのでは」と不安もあり、不合格通知を受けたとき「やっぱり」と投げやりになっていました。私は、一人では絶対に合格までたどり着けませんでした。周りの友人や先輩、先生方の支えがあったからこそ、静岡県で「合格」の2文字が入った通知を頂けたのだと思います。皆さん、在学中は国家試験勉強や卒業論文作成、課題提出などしなくてはいけないことが押し寄せてきます。早め早めに取り組んでいくことをおすすめします。応援しています。

合格体験発表会に参加して

子ども発達学部 子ども発達学科 学校教育専修3年 椎野公貴

合格体験発表会では、実際に教員採用試験に合格した先輩方のお話を聞くことができ、教員を目指す私たちにとって、大変貴重な機会となりました。今回の発表会では先輩方個人個人の、教員採用試験に向けた取り組みを知ることができました。どのように勉強をすれば良いのかなど分からない事ばかりの私たちにとって、先輩方の自らの経験を交えたお話はとても参考になりました。

特に先輩方のお話しの中で、「仲間の存在が大きかった」と話されている先輩がとても多いように感じました。教員採用試験の合格のためには個人の努力だけでなく、仲間と協力し、支え合うことが大切だと思います。周りには教員を目指す友人だけでなく、企業への就職を目指す友人などたくさんの仲間がいます。教養試験や専門試験への対策をするだけではなく、一緒に面接練習をしたり、時に悩みを相談し合ったり、互いに切磋琢磨することが大切であると感じました。

また合格した先輩方は各自治体の過去問を分析し、採用試験に特化した勉強をするとともに、教師として教壇に立つ姿を想像して日々の勉学に励んでいたように感じます。教員採用試験に合格するためだけの勉強ではなく、どんな教師になりたいかを常に考えておくことが大切であると感じました。

今回の合格体験発表会を通して、教員を目指す意識が高まった人も多いと思います。先輩方の貴重な時間を割いて頂き、本当にありがとうございました。私たちも仲間を大切にし、協力しながら、教員採用試験やその先の未来に向けて精進していきたいと思います。

スリランカの特別支援学校で得たもの

2012年度 子ども発達学部 心理臨床学科 卒業　竹下綾香

私は静岡県内の特別支援学校で常勤講師を２年間務めた後、2014年10月から2年間、青年海外協力隊としてスリランカに派遣されていました。

スリランカは南インド洋に浮かぶ島国です。面積は北海道よりも少し小さく、インド洋の涙、インド洋の真珠とも呼ばれています。この小さな島国にはなんと6つの文化遺産と2つの自然遺産があります。

私は地方の自然と動物溢れる地域にあるArunella特別支援学校で活動をしていました。この学校はおよそ30名の生徒（５歳から21歳）が一つの教室で勉強しています。

学校に在籍する教員は３人、私を含め４人です。スリランカでは特別支援が必要とされる生徒５人に対し１人の教師がつくことになっています。生徒は毎日全員が来るわけではありません。しかし、圧倒的に足りない日があります。この教員不足の中でいかに工夫をして学校を盛り上げていけるかが課題でした。またスリランカでは、宗教上の教えで弱者には施しを与え優しくしなさいという文化があるため、特別支援を必要とする人たちが自立するという考えが余りありません。その中で自立がいかに大切か、ということを伝えていくことも必要でした。

私の活動内容としては大きく、①学校活動の基礎づくり、②生徒が伸びる授業づくり、③教員の指導力向上、④分かりやすい個別到達度の図表作成、⑤通常学校や地域との交流などがありました。学校の教員たちと話し合いながら学校の時間割や休み時間を作るところから始め、２年間の活動を終えるときに発達検査で分けたグループ別の授業が出来るところまでいきました。日本とは文化も宗教も歴史も違うなかで、スリランカの子どもたちが生きていくために必要なものは何か、を考えることが一番大変だったと今も強く思います。

２年間活動できたのは活動先の同僚たちのおかげです。私の拙い現地語を解読し、面倒とは言わず、特別支援学校を良くしていこうと諦めないで一緒に活動をしてくれました。そんな情熱溢れる人たちと一から学校づくりができたことは、私にとってとても貴重な経験となりました。それは、帰国して日本の特別支援学校に再び勤務していても感じます。

生活単元学習や個別の指導など、現在の日本の特別支援教育は様々な歴史があって成り立っています。過去の教師たちが作ってきたレールの上に今の自分たちがいて、子ども達に指導出来ていることはとても幸せなことです。しかし、同時になぜその学習が必要なのか、という意識が薄れているようにも思えるのです。たくさんの資源に囲まれ、より良い指導ができる環境にあるからこそ、学校や教育の原点を忘れずに子どもたちの指導をしていくことが重要ではないでしょうか。その少しの意識が、子ども達を豊かに育てることに繋がると、スリランカの人たちから学びました。

私もまだまだ勉強中の毎日です。スリランカの人たちに教わった教育の原点を忘れず、日本の特別支援学校で日々の教育活動に励んでいきたいです。

フィールドワークを終えて

子ども発達学部 心理臨床学科 障害児心理専修3年　八澤彗衣子

今年度のフィールドワークでは京都府の二条城・龍安寺・天竜寺を訪れました。昨年度の反省を生かし紅葉シーズンを避け１２月に訪れたため、移動もスムーズに行き、計画していた時間通りに見学することができました。

普段観光ではなかなか訪れることの少ない龍安寺や天竜寺、小学生以来久しぶりに訪れる人が多い二条城など、今回の見学場所は参加者にとってよい機会となったのではないかと思います。フィールドワークでは、教科書や資料集などの写真で見るものとは違い、実物だからこその迫力や、新たな視点から発見することも多く、これからにつながるよい経験となりました。私は、今回フィールドワークの実行委員を務めさせていただきましたが、事前準備はさることながら当日全員で移動を行う際に、集団での移動がうまくできなかったり、変更した内容がうまく伝わらなかったりと大変だと感じる時が多々ありました。しかし、全員に向けた指示の出し方や伝え方、スケジュールの把握や実行委員同士の連携など、集団をまとめる上で自分に何が不足しているのか、課題はなにかということを気づくことができたよい機会となりました。

今回のフィールドワークでの反省点は事前学習が不十分であったことと、実行委員の説明不足により学習よりも観光気分で見学をしてしまったことです。移動のバスでは時間が充分にあったため、事前学習の発表や、詳しく文化財の歴史についてまとめて発表を行うなど、時間を有効的に使用してフィールドワークに挑むべきであったと思います。実行委員として、反省点は多々ありますが、参加者が楽しそうにしていたことと「楽しかった」という感想を聞くことができ、フィールドワークに参加することができてよかったと思います。

今後の予定

【新２年生】

教職課程オリエンテーション

美浜キャンパス　３月２８日（火）４限～５限　１２４１教室

東海キャンパス　３月２８日（火）４限～５限　Ｓ３０４教室

教職課程登録

３月２７日（月）～３０日（木）１７：００まで

※教職課程オリエンテーションに出席後、課程履修費の納入及び課程登録を行ってください。

【新３年生】

教育実習手続き（中学校・高等学校・特別支援学校 教育実習内諾依頼）及び介護等体験 説明

美浜キャンパス　４月１３日（木）３限

東海キャンパス　４月１３日（木）４限

※４年次の教育実習校の内諾依頼に向けた手続きについて説明します。

【新４年生】

教育実習手続き（中学校・高等学校・特別支援学校 教育実習直前）及び介護等体験 説明

美浜キャンパス　４月１３日（木）４限

東海キャンパス　４月１３日（木）５限

※教育実習Ｉ事前事後指導のクラス・日程については各学部の時間割冊子を参照してください。